

「探究活動」におけるルーブリック評価表
(レポート2次提出用)

◎ 当てはまる項目の□に「黒色で✓」をつける(✓1つ＝1点とします) → 教員の評価は「赤色の✓」
□□の✓をつける基準 … 左＝「項目について、触れている」 右＝「項目について、十分な内容である」
◎ 「1学期」面談時 … ①～⑦, ⑨の評価 ◎ 「2学期」面談時 … ①～⑨の評価

グループ番号 _____

3年____組____番 氏名 _____

達成段階 身に付けた力	参考となる ページ	評価に用いるもの (第3学年)	C 段階	B 段階	A 段階	I (革新的)段階	自己 評価	教員 評価
①-1 課題の設定力 (1) (注)社会的な課題に使用する 《定義》解決したい、解決すべき研究テーマ・リサーチエスジョン・仮説を設定する	課題研究 メソッド P.3～10	「研究レポート」 研究テーマ 研究動機 リサーチエスジョン 研究の目的・意義及び仮説 「ノート」	□□ 研究テーマ・リサーチエスジョン(・仮説)を設定している □□ 自分の興味・関心のある研究テーマを設定している	□□ 何を明らかにしたいか明確に示している □□ 「どの地域」の「いつ」の課題かを説明できている □□ 「誰」に、「どのような」問題が生じているか説明できている	□□ 研究を行う上で理解するべき「時代背景」や「社会の状況」、「概念」などを説明できている □□ この研究を行う前とあとで、どのような変化が期待されるか述べている	□□ この研究を行うことで、社会や学術にどのような貢献が見込めるか説明できている	/16	/16
①-2 課題の設定力 (2) (注)学術分野に使用する 《定義》解決したい、解決すべき研究テーマ・リサーチエスジョン・仮説を設定する		「研究レポート」 研究テーマ 研究動機 リサーチエスジョン 研究の目的・意義及び仮説 「ノート」	□□ 研究テーマ・リサーチエスジョン(・仮説)を設定している □□ 自分の興味・関心のある研究テーマを設定している	□□ 何を明らかにしたいか明確に示している □□ 研究を行う上で必要となるもの(「資料」や「人材」、「装置・機材」、「試料」、「資格」など)について説明できている	□□ 研究を行う上で理解するべき「時代背景」や「社会の状況」、「概念」、「原理」、「数式」などを説明できている □□ この研究を行う前とあとで、どのような変化が期待されるか述べている	□□ この研究を行うことで、社会や学術にどのような貢献が見込めるか説明できている	/14	/14
②先行研究・事例の調査力 《定義》発見した課題に対して、先行研究・事例について調査する		「研究レポート」 研究の目的・意義及び仮説 リファレンス 「ノート」	□□ 過去の少なくとも一つの研究・事例を先行研究として提示している	□□ 過去の二つ以上の研究・事例を先行研究として提示している	□□ 過去にどのような取り組みや研究があり、どのようなことがわかってい(か)わかっていない(か)、問題か)説明できている	□□ 過去の二つ以上の研究・事例を比較しながら、先行研究として提示している	/8	/8
③探究活動の立案力 《定義》調査・研究の目的を理解し、適切な計画を立案する		「研究レポート」 研究手法 「ノート」	□□ リサーチエスジョン(・仮説)に答えられる(近づくことができる)手法である □□ 必要になるものや事前に準備すべきことを検討している	□□ 実現可能な研究手法になっている □□ 先行研究や専門書等を基に、研究手法を検討している □□ 研究手法を読んで、読者がその研究を再現できる程度の詳しさを記述している	□□ 調査・研究で得られた結果を分析する方法を記述している □□ 研究に関するリスク管理について提示している □□ 研究スケジュールについて記述している	□□ 研究手法では明らかにならない限界について説明できている	/18	/18
④探究活動の実践力 《定義》③の計画に基づき、安全で適切な調査・研究を実践する	メソッド P.100～117	「研究レポート」 研究手法、結果・考察 「ノート」	□□ 計画に基づいて、1回目の調査・研究を実践している □□ 1回目の調査・研究で得られた結果から、リサーチエスジョン(・仮説)に答えられて(近づけて)いるかを振り返っている	□□ 1回目の調査・研究で得られた結果から新たな問いを立て、リサーチエスジョン(・仮説)や研究手法の見直し・改善、深化を行うことができる □□ 安全性や個人情報保護などに配慮し、実践している	□□ 複数の回数調査・研究を行い、その都度リサーチエスジョン(・仮説)に答えられて(近づけて)いるかを振り返っている □□ 複数回調査・研究を行い、その都度得られた結果から新たな問いを立て、リサーチエスジョン(・仮説)や研究手法の見直し・改善、深化を行うことができる	□□ 社会問題や既存の学術分野における新たな提案・発見につながる結果を得ている	/14	/14
⑤-1 結果の分析・処理力 (1) (注)定量調査に対して使用する 《定義》調査・研究で得られた結果を「定量データ」として扱い、考察に向けて適切に分析・処理する	メソッド P.101～108 154～163	「研究レポート」 研究手法、結果・考察、 結論・今後の展望・課題点 「ノート」	□□ 得られた結果を「定量データ」にすることができている □□ 「定量データ」について、グラフや図・表、基本統計量などを用いて表現している	□□ 「定量データ」について、適切な手法を選んで適切にまとめている □□ まとめたものを基に、調査・研究で得られた結果について1つの視点から分析をしている	□□ まとめたものを基に、調査・研究で得られた結果について複数の視点から分析をしている □□ 結果からわかることについて、別の研究・事例やすでに知られている物事を基に分析している(裏付け、比較など) □□ 誤差や有意差、有意水準などについて述べている	□□ 実験・観察の場合、研究の再現性について確かめている	/16	/16
⑤-2 結果の分析・処理力 (2) (注)定性調査に対して使用する 《定義》調査・研究で得られた結果を「定性データ」として扱い、考察に向けて適切に分析・処理する	メソッド P.110～111 プリント No.9-3	「研究レポート」 研究手法、結果・考察、 結論・今後の展望・課題点 「ノート」	□□ 得られた結果を「定性データ」にすることができている □□ 「定性データ」について、図解化したり、写真や画像について特徴をまとめたり、ディスカッションした意見のまとめを作成したりしている (注)メソッドP.110～111、探究IプリントNo.9-3参照	□□ 「定性データ」について、適切な手法を選んで適切にまとめている □□ まとめたものを基に、調査・研究で得られた結果について1つの視点から分析をしている	□□ まとめたものを基に、調査・研究で得られた結果について複数の視点から分析をしている □□ 結果からわかることについて、別の研究・事例やすでに知られている物事を基に分析している(裏付け、比較など)	□□ 自分の分析結果と異なる立場の意見について分析し、反論している	/14	/14
⑥結果の考察力 《定義》③～⑤の能力に基づいて、結果を考察する	メソッド P.100～117	「研究レポート」 研究手法、結果・考察、 結論・今後の展望・課題点 「ノート」	□□ 調査・研究で明らかになったことについて考察している	□□ 仮説の真偽やリサーチエスジョンに対する答えについて、分析・処理したことを基に考察し、結論を得ている □□ 研究の問題点とその解決策に対して考察している	□□ 結論から導き出された研究で解決できなかったことや、新たな問い、今後の展望について述べている □□ 社会的な課題や学術分野における研究の意義と得られた結論を結びつけている	□□ 社会的な課題や学術分野へどのような貢献が見込めるかについて述べている	/12	/12
⑦論理的表現力 《定義》調査・研究の結果と考察を論理的にまとめ、説得力をもって研究報告として表現する	メソッド P.132～138 153 112～117 プリント No.9-3	「研究レポート」 全体 「ノート」	□□ 研究要綱・研究論文を、項目立てし、文章で表現している □□ グラフの下や図の上にキャプションをつけている(メソッドP.102d) □□ 引用した箇所と自分自身が書いた箇所を区別できるように記述している	□□ 研究で得られた結果を根拠とし、説得力のある表現をしている □□ 引用文献・参考文献のリストを「引用のルール」に従って提示している	□□ 効果的な技法(パ「ラ」グラフ、図、表、演繹法など；メソッドP.153、112～117)を適切に活用し、わかりやすく表現している □□ 結論について、別の研究・事例やすでに知られている物事を用いて、説得力のある表現をしている(裏付け、比較など) □□ 信頼できる情報源を用いている (注)メソッドP.36～38に挙げられているものを用いる。Wikipedia・専門家でない個人が発信しているWebサイトは信頼できる情報源とはいえない。	□□ 研究要綱・研究論文が、英語で表現されている。(注)「全体」のときは2点、「要約」だけのときは1点とする	/18	/18
⑧情報発信力 《定義》研究報告書を基に、他者に研究内容を発信するとともに、質疑や他者の発表を聞くことで自分の知見を広げる	※ 評価項目を 年度初めから 一部変更して います (前年の 合同発表会に 近い項目)	「研究レポート」 「研究発表」 「振り返りシート」	□□ 研究について、やってきたことを説明している □□ 時間を適切に使ったり(長すぎも短すぎもせず)、最初と最後にあいさつをしたりするなど、マナーを守った発表をしている □□ 他者の発表に対して、自分の感じたことを述べるができる	□□ 研究について、自分たちの研究の問題点や課題点を説明している □□ プレゼンテーションの資料やポスターを、見やすくなるよう工夫して作成している (注)情報の授業で用いるテキスト「パーフェクトガイド(情報)」参照 □□ 発表者からの質疑に対して、回答できている □□ 他者の発表に対して、疑問に感じたことを質問することができる	□□ 研究について、新たな問いや今後の研究予定・展望を説明している □□ 聴衆に質問したり、相づちなどの反応を求めるなど、聴衆を参加させる工夫をしている □□ 研究について、適切な資料、動画、演示等を用いるなど効果的な表現方法で発表している □□ 他者の発表に対して、新たな視点を導き出せるような提案を述べている	□□ 研究発表を英語で行っている。(注)「全体」のときは2点、「一部分」のときは1点とする	/24	/24
⑨研究の記録力 《定義》探究活動の記録のつけ方に従い、正確に記録を残す	「研究の記録の つけ方」プリント メソッド P.98～99	「ノート」	□ □ 1回の活動ごとに、ノートなどへの記録がある □ □ 1回の活動ごとに、必須である4項目(日付、活動の目的・目標、活動の中で得られたことや気づいたこと・結果と考察、次回に向けた課題や計画)について触れている (注)毎回4項目について触れてあるときは2点。時々触れていないときは1点とする	□□ 活動の目的・目標の記録が、第三者が見てもわかるように詳細に記録されている (注)毎回十分な内容であれば2点。時々十分でないときや触れていないときは1点とする □□ 活動の中で得られたことや気づいたこと・結果と考察の記録が、第三者が見てもわかるように詳細に記録されている (注)同上 □□ 次の活動に向けた課題や計画の記録が、第三者が見てもわかるように詳細に記録されている (注)同上	□□ 過去の活動と現在の活動の関係性について吟味している □□ 活動により明らかにされた事について、信頼性や探究方法の妥当性について吟味している	□□ 活動により明らかにされた事について、限界などについて吟味している	/15	/15